

令和5年度第2回福岡市総合図書館運営審議会 議事録

- 1 日 時：令和6年3月27日（水）10：00～11：30
- 2 場 所：福岡市総合図書館 3階 第1会議室
- 3 出席者：委 員）渡邊由紀子、中島佳江、上村篤子、増田亜希子、西聡子、白根恵子、
矢崎美香、木下博子、脇山真治、矢島啓子、安永行政（計11名）
事務局）立石総館長、松崎館長、中村運営課長、中村図書サービス課長、
高巢文学・映像課長 他
傍聴人）1名

4 議事録

1. 開 会
総館長挨拶

2. 議 事

(1) 議題 ① 福岡市総合図書館基本的運営方針の策定について

委員	福岡市総合図書館基本的運営方針について、2年間の延長により目標数値が上積みされているが、これは自然増となるものではない印象を受けた。この目標を達成するため、現時点において広報戦略、メディア対策等の施策で検討していることを尋ねる。
事務局	成果指標及び目標数値については新ビジョンを策定した当初のもので据え置いている。しかしながら、目標達成は数値を見る限りかなり厳しいものであると認識しており、目標に少しでも近づけるよう取り組む決意を持って今臨もうとしているところである。広報、メディア対策を含む来年度の具体的な取組みについては後程説明するが、ホームページやSNSの活用といった基本となる既存の取組みを着実に実施するとともに、少しでもリピーターが増えるような様々な仕掛けを模索したいと考えている。
委員	貸出し冊数の目標数値に電子図書館の冊数は含まれていないという理解でよいか。
事務局	そのとおりである。
委員	せっかく電子図書館を開設しており、利用者からすれば物理的に借りるのも電子で借りるのも情報としては同じであることから、電子図書館の貸出し冊数も含めたほうがよいと考える。
委員	公民館は総合図書館から本を借りており、高齢者がその本をよく利用しているが、その貸出し冊数も目標数値に含まれるのか。
事務局	総合図書館から公民館への貸出しは団体貸出であり、公民館等の団体から個人に貸し出している冊数は目標数値の個人貸出冊数には含まれていない。団体から個人に貸し出している冊数については集計作業が団体の負担となることから数字は求めていないが、登録団体に貸し出している冊数は把握している。

② 令和6年度事業計画について

委員	<p>16ページ、職員研修のうち専門研修について、令和5年度はどのような研修に職員を派遣したのか。</p>
事務局	<p>基本的には福岡県や日本図書館協会、全国組織等から案内された研修に、読書相談員あるいは副分館長といった司書資格を持った人を中心に派遣している。</p> <p>例年、県立図書館の実施する児童担当者向けの研修会や、初任者向けの研修会、公共図書館のレファレンス研修、著作権の講習会、図書整理保存研修会、全国の図書館大会、子ども読書のスキルアップ講座等に参加している。</p>
委員	<p>文科省主催の研修会、日本図書館協会が主催する児童図書館養成講座や経験者向けの講座など、研修期間の長い講座への職員の派遣は検討していないのか。</p>
事務局	<p>研修対象となる職員の人数が多く、多くの人に様々な研修を受けてもらうようにしている。研修期間が長期となると、業務体制や予算などとの関係で限られた人しか参加できなくなることから現在は派遣できていない状況である。</p>
委員	<p>個人での受講希望者もいると思うため、費用負担はできないかもしれないが、休暇扱いとしないなど、参加しやすくなるよう配慮してもらいたい。児童サービスやレファレンスに関して、私自身、日本図書館協会や文科省の行う研修を受講して、自信を持って仕事に当たれるようになったという経験がある。受講希望者には何らかの支援してもらえるとありがたい。</p>
事務局	<p>職の制度上で可能な配慮は検討したい。</p>
委員	<p>9ページ、小学生子ども読書リーダーの育成について、現在の状況と目標設定について尋ねる。</p> <p>現在大ヒットしている映画「52 ヘルツのクジラたち」の著者である町田そのこ氏は福岡在住のようだが、そのような今まさに活躍している福岡にゆかりのある作家を特集するコーナーをつくれれば若い層に非常にインパクトを与えられるのではないかと意見しておく。</p> <p>バックヤードツアーを再開したと市政だよりで見たが、これは非常によいことだと思う。また、早良図書館では小学生に一部の棚の展示を考えてもらう試みを実施していると早良図書館だよりで見た。子どもたちが図書館で働く人に興味を持つことはこれからの読書ファンを増やすために非常によいと思ったため、早良図書館以外の館にも拡大されたいと意見しておく。</p> <p>子ども読書リーダー活動推進事業については、小学5、6年生を対象に各学校において動画等を活用して講座を行っており、令和5年度は12月末時点で42校で実施し、認定者数は634人である。具体的な数値目標はないが、さらに多くの学校で実施してもらうことが1つの目標である。</p> <p>分館によっては広報紙やXなどのSNSを活用してPRしているところもある。早良図書館では職員の動き、東図書館では休館中の作業の様子などを載せており、図書館の裏側を見せることで関心を持ってもらえるような取組みを今後広げていきたいと考えている。</p>

委員	<p>5 ページ、読書普及活動のうちおはなし会について、4 月から幼児向けと小学生向けのおはなし会を通常の 30 分でようやく開催できるようになった。総合図書館の 1 階にあるおはなしの家は非常に暗かったが、現在は壁も床もきれいにしてもらい、電気も明るくなったことで雰囲気も明るくなり、本当に感謝している。</p> <p>一方で、おはなしの家には段差があり、じっと座って参加できる子どもたちに向けた部屋として設置されているように思う。以前は第 2 会議室と託児室を利用して、平らなところで赤ちゃん向けのおはなし会をしていた。赤ちゃん向けのおはなし会については 2 月からおはなしの家でようやく再開されたが、3 月のおはなし会では子どもが動き回り、スタッフが必死に対応するということがあった。今はまだ再開したばかりで何も起こっていないが、問題が起きてからでは遅いと思う。おはなしの家が明るくなったのはよいことであり、1 階だとわかりやすいという利点はあるが、赤ちゃん向けではないと感じたため、可能であれば平らな別の場所での開催を検討してほしい。</p>
事務局	<p>おはなし会といえばおはなしの家でしているということが定着すればよいと思っているが、赤ちゃん向けのおはなし会は試行的に行っていることもあり、今後、今回の意見も踏まえてよりよい方法を検討していきたい。</p>
委員	<p>3 ページ、電子図書館の利用促進の内容にある複数人同時利用が可能な児童向けコンテンツを期間限定で導入することについて、5 ページ、こども図書館講座との連携の有無及び検討しているコンテンツ内容について尋ねる。</p> <p>また、この導入については、学校が夏休みなど同時期に同じような内容の課題を出すことから、図書館に調べものに来て本がないということが多くあるために検討することとなったのか。</p>
事務局	<p>こども図書館講座と電子図書館は直接連携はしていない。来年度は電子図書館において何人でも同時利用が可能となる読み放題のバックを期間限定で導入し、どのようなニーズがあるか研究したいと考えている。コンテンツについては、漫画の学習パック、科学パック、アンパンマンのパックなどを検討している。</p>
委員	<p>娘が中学生だったとき、調べものをする時期が大体夏休みなどに重なり、関連する本が全て誰かに利用されているということがあった。最近はタブレットを使用するようになり、インターネットを見て出所が不明のものを参考にするということをしがちである。様々な人の目を通ってきた書物を活用して調べるということもとても大事だと思うため、そのような視点を考えに入れられたい。</p>
事務局	<p>意見を参考に検討したい。</p>
委員	<p>7 ページ、地域読書活動の支援について、地域では高齢化が進んでおり、高齢者は体が不自由になり、遠くまで行くことが困難である。身近なところで本を借りられるようになることはとてもありがたいことであるため、支援をお願いしたい。</p>
事務局	<p>特に身近な場所として、公民館を中心に団体貸出先はまだ増やせる余地があると考えている。公民館や文庫の人々の協力が必要になるが、まだ全館に行き渡っていないため、引き続き公民館と協力しながら普及に取り組みたい。</p>

委員	<p>17ページ、XやFacebookを使用して広報しているが、図書館の利用が少ない中高生をターゲットにするのであれば、職員の負担は増えるがInstagramやTikTokのような中高生が好むSNSで展開したほうがより効果があるのではないかと。</p> <p>16ページ、バックヤードツアーなどの図書館見学について、昨年度司書課程の学生と点字図書館を見学したが、大学生においても点字図書の作成方法や使用方法について興味津々だった。大学生でそうであれば、障害者差別解消法が改正されたこともあり、点字図書館のような今ある施設を活用して、小中学生の興味を引くような働きかけをすることもよいのではないかと。所管は違うかもしれないが、可能であれば広報に活用してもらいたい。</p>
事務局	<p>広報については、今後も引き続き検討したいと考えている。</p> <p>バックヤードツアーについてはコロナ禍の落ち着きを踏まえ、少しずつ再開したところである。3月に2回ほど実施したところ、特に子どもたちを含めた参加者が大変喜んでいと担当者から聞いており、効果が相当高いものであると改めて認識したところである。市政だより等広報ツールを活用しバックヤードツアーの参加者を広く募集するとともに、学校からの視察や職場体験などの要望にも可能な限り対応し、図書館のファンになってもらい、実際の利用につながれたらよいと思っている。</p>
委員	<p>昨年度の事業の中で、高等学校の弦楽コンサートがあった。100人以上の観客がおり、とても評判がよかったと聞いている。図書館が本だけではなく一つの文化的な中心施設として働くという意味でとても重要なイベントだったと思うが、来年度も同様のイベントの計画があるのか尋ねる。</p> <p>電子図書館について、総合図書館内のパソコンルームを使い、利用方法を教えるような講座の計画はあるか。それにより利用者が広がると思うがどうか。</p>
事務局	<p>高等学校の弦楽コンサートは、指定管理者の企画事業として進めてきたものである。来年度も同様のことができるかについてはこれから調整を要するが、委員ご指摘のとおり、本だけではなく文化的な施設として楽しんでもらえる施設とすることも含め検討していきたい。</p>
事務局	<p>電子図書館については、図書館に来られない人にも読書を楽しんでもらうという発想で始めたものである。利用するにはログインが必要になってくるため、自身が所有する機器で見てもらうことを前提で考えている。総合図書館にある市民が利用できる4台のパソコンで電子図書館にログインすることについては個人情報保護の観点から懸念があるが、検討はしたいと思う。</p>
委員	<p>13ページ、映像資料の公開及び展示等について、ビデオライブラリーのレイアウトを見直すところがあるが、ビデオラックそのものを撤去してはどうか。令和4年度の事業報告において、ビデオ・CDの1日の貸出しが前年度比11.6%減少していると記載されており、コロナの影響はあったかもしれないが、安く新作の映画等が見られる時代になり、減少傾向は今後も変わらないと思う。1日当たり、ビデオが10本強、C</p>

事務局	<p>Dが 100 本程度借りられており、図書館としてこのサービスをなくすことはないと思うが、会議冒頭の総館長の発言のとおり令和6年度はDX化を進めるのであれば、いきなりは難しいと思うが、レイアウト変更ではなく思い切って仮想のビデオラックにすることも検討してはどうか。空いたスペースは、例えばアクティブラーニングのスペースにするなど、蔵書スペースに限りがあるという問題もある中で、貴重なスペースを少ない貸出しのために維持するのか、レイアウト変更でよいのかどうか少し考えられたい。</p> <p>現在約 4,000 本のVHSのパッケージが表に、バックヤードにその中身が置いてあり、パッケージを窓口を持っていけば借りられるという運用を行っている。常連の利用者が 10 人程度おられ、ほぼ毎日利用がある。所蔵している映像資料には、既に廃盤で図書館のVHSでしか見られないものもあれば、DVDや配信などで見られるものもある。現在、いろいろと整理の上、予算も踏まえて、利用しやすい、スペースを有効活用できる方法を検討していることから、また随時報告する。</p>
-----	--

(2) 報告 令和6年度予算及び機構について

委員 事務局	<p>資料収集経費を 800 万円増額した背景を尋ねる。</p> <p>資料収集経費は図書館の中でも非常に重要な経費であると認識している。一方で、経常経費のためどれだけ確保するかについては毎年切実なものがあるが、図書館全体の経費を見ながら工夫して何とか確保したところである。図書購入費の増額は前年度比 160 万円程度であるが、寄贈本も含めビニール加工やICタグの貼り付けなどの経費も必要となるため、その分も含めて 800 万円の増額となったものである。</p>
-----------	---

3. 閉会
館長挨拶